

市議会12月定例会

行政報告

冷害の被災農家救済、今年教訓に克服策も

今年教訓に克服策も

市議会十二月定例会が招集された十二月六日、小畑市長が行政報告をしました。その中から主なものの要旨をお伝えします。
今定例会で審議された案件等については一月十六日号でお知らせします。

冷害対策について

本年の異常気象下における冷害は、まさに大館市の稲作史上未曾有とも言えるもので、被害農家をはじめ大館市農業全体に、

将来にわたる深刻な影響が懸念されます。さらに、地域経済が低迷しているこの時期に、農家の消費需要の減退等とあいまって、地域経済の各般に及ぼす影響も一層深刻なものと認識しています。



さて、本年の大館市における水稲の作況は、平坦部では「あきたこまち」が出穂した八月二十日前後は一時高温になりましたが、その後再び低温になりました。出穂はしたものの登熟が進まず、障害不稔の大発生が予測されましたが、八月末から若干気温が上がり日照時間も多くなったため、後半の登熟は順調に推移し、被害程度は山間部に比べ少ないものとなりました。

一方、山間部の「あきた

こまち」や「キヨニシキ」「あきた39」は、八月二十一日・二十三日ごろに出穂が始まり、低温に遭遇したため極端な障害不稔になり、登熟も悪化し、大きな減収につながりました。特に、長木川沿いの標高百三十メートル以上の水田には十和田湖方面から、長走や釈迦内方面には青森県境側から「やませ」が吹き込んだものと考えられ、両地域とも近年にない多くの面積が収穫皆無になるなど、極端な障害不稔が発生したものと推測されます。

市農業総合指導センターの水稲冷害等被害状況調査(十月二十九日現在)では、水稲作付け面積約三千百三十三ヘクタールの平均減収率は五六・五%です。金額にすると平年作の生産額約四十八億一千万円に対し、二十七億二千万円の減収となり、大館市経済に与える影響が大きいものと心配しています。中でも、作付け面積の一二%にあたる約三百七十七ヘクタールは収穫が皆無です。米穀出荷状況は、十一



実が入らず、立ちつくした水稲

月中旬において予約限度数量四十六万三千三百九十袋(一袋三十グラム)に対し十七万八千四百七十七袋の出荷で、三八・五%の出荷率となっています。当面の対策として、被災農家救済のために次の事項を実施する考えです。

- 1・農業金融対策として、被害農家の経営再建と再生産の確保のため天災融資法、激甚災害法の早期発動を国、県へ陳情してきましたが、特に冷害の影響の大きい担い手農家の救済を中心に、天災資金、自作農維持資金の利子軽減、単独冷害対策資金等の条件緩和を講じていきます。
- 2・農業共済金対策としては、国や共済団体に対し、適正な損害評価と共済金の年内支払いについて陳情してきました。

長 市リポート



No. 58

鉱山の採掘休止について

花岡鉱業から鉱山の採掘休止の申し出があり、大館市全体が大変大きなショックを受けています。今はそのショックから我に返って、今後をどうするか考えている状況だと思います。私自身もいろいろ走り回って、国や県ともよく話し合いながら善後策を検討していますが、まずは二つだと考えています。

採掘休止となれば職を失う人が出てきますが、その人たちになんとしても大館に残ってもらうための職場づくり、これが第一でしょう。そして鉱山の灯が消えた場合の花岡地区の活性化です。この二点で、当面ががんばりたいと思っています。

会社側は、鉱山は休止になっても、同和グループとして花岡から撤退することは絶対ではない、花岡あつての同和であると話しています。国、県、市、並びに会社、そして従業員の方々と、地域の皆さんが一緒になって、官民が力を合わせて、この難局を乗り越えていきましょう。

小畑 元